



- 近年の豪雨災害を受け、河川整備の目標とする降雨「計画規模降雨」に対し、想定される最大の降雨「想定最大規模降雨」が設定されました。
- この地図は、布施川・片貝川・鴨川・角川・早月川が大雨（想定最大規模降雨）によって増水し、堤防が決壊（破堤）した場合の浸水予測結果に基づいて、浸水する範囲と被害の大きさを示したものです。
- 流域で降った雨が、対象の河川に流れ込む面積（河川）への24時間総雨量が以下の降雨と想定してシミュレーションを行っています。

※既存の洪水ハザードマップと見比べてみましょう。
※地図に示した範囲以外でも、浸水被害が起る可能性があります。

- 水害の恐れがあるときは、市から発令される「高齢者等避難」や「避難指示」に従い、速やかに避難して下さい。
- 逃げ遅れた場合は、無理をせず安全な高い場所に避難して下さい。

- みなさんの住んでいる地区が最大規模の降雨の場合、どのくらいの深さまで浸水するかを確認しましょう。
- 地区ごとに、避難所を記載しています。最寄りの避難所を確認し、避難時の安全な道のりを調べておきましょう。
- いざという時のために、見やすい場所に貼っておきましょう。
- 家屋倒壊等危惧想定区域または浸水深が3m以上の場所にお住まいの方は、早期の避難が必要な場合があります。

片貝川は平均河川流量121と日本屈指の急流河川で、昭和27年7月や昭和44年豪雨で水害が発生している。昭和27年7月豪雨では片貝地区で堤防が決壊、片貝・加精地区で橋梁の流出、床上下浸水、田畑流出などの被害を受けた。

(昭和47年 亀津史実：亀津市)

●鴨川は、川幅が狭く流れも急で、洪水被害が度々発生してきた。平成10年7月豪雨では、亀津市中心街において、床上浸水26戸、主要道路の通行止めなどの被害が発生した。平成26年7月豪雨では、亀津市中心街において、床上浸水3戸、床上浸水123戸の被害が発生した。

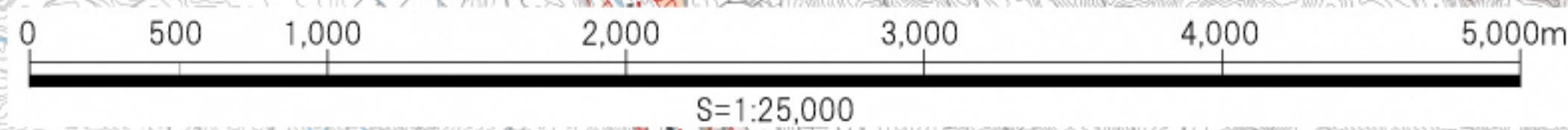
(平成30年 地域防災計画：亀津市)

●角川は、亀津市街地を流れているために、昔から洪水のたびに被害が発生。近年では昭和27年、39年、44年に特に大きな被害を受けた。昭和39年7月豪雨では角川下流域で避難命令が出された。

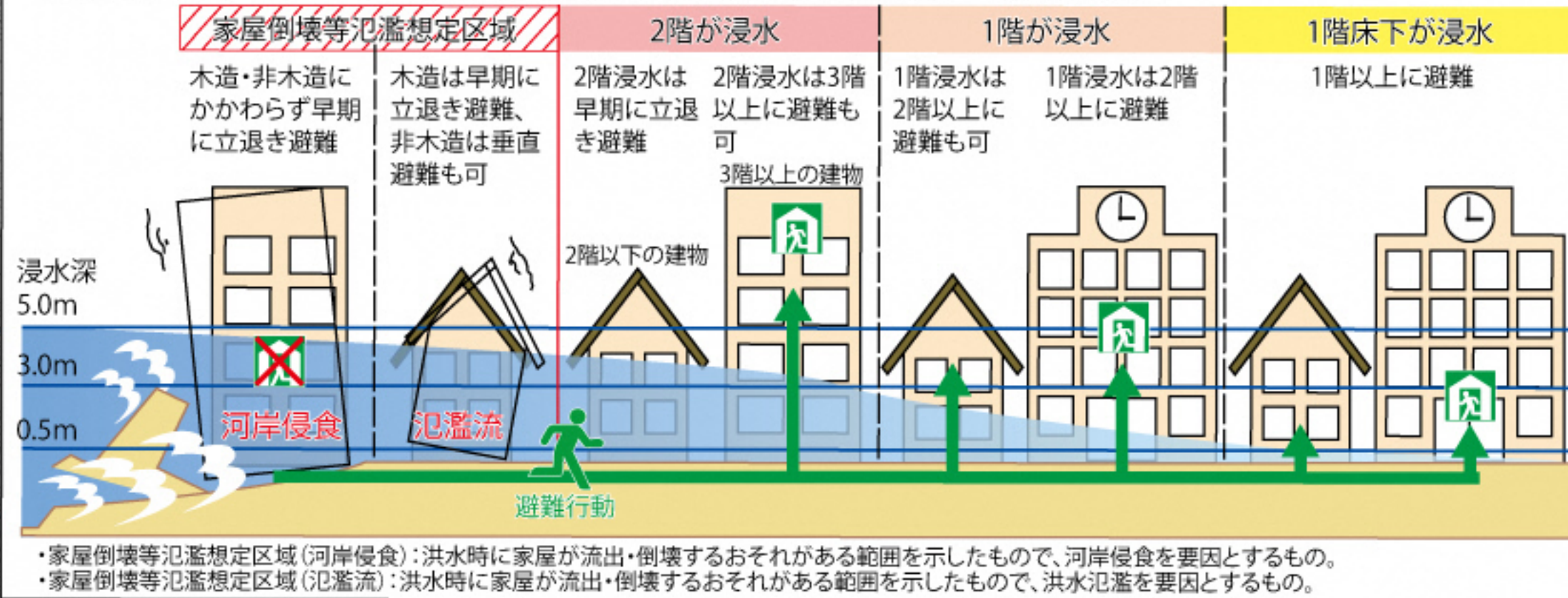
(昭和39年 山陰・北陸豪雨被害調査 富山県気象台)



鉢・虎谷地区



自宅がどの範囲に入っているのか確認し、どのように避難するのか家族と話し合ってみましょう。



水位ごとに、とるべき行動や危険度に応じた名称・レベルが付けられています。

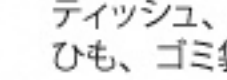
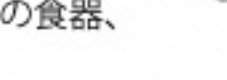
- レベル5 氾濫の発生 (氾濫発生情報)**
 - ・市は「緊急安全確保」等の発令を判断
 - ・水防機関による逃げ遅れた住民の救助や、新たに氾濫が及ぶ区域の住民の避難誘導
- レベル4 氾濫危険水位 (氾濫危険情報)**
 - ・市は「避難指示」等の発令を判断
 - ・住民は速やかに危険な場所から避難
- レベル3 避難判断水位 (氾濫警戒情報)**
 - ・市は「高齢者等避難」等の発令を判断
 - ・住民は、氾濫に関する情報に注意、高齢者等は危険な場所から避難
- レベル2 氾濫注意水位 (氾濫注意情報)**
 - ・水防団出動
- レベル1 水防団待機水位**
 - ・各水防機関が水防活動に対して準備する水位

- ※市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。
- ※各種の情報は、警戒レベル1～5の順番で発令されるとは限りません。状況が急変することもあります。
- ※警戒レベル3は、高齢者等以外の人にも必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

浸水深

浸水深 10.0~20.0m
浸水深 5.0~10.0m
浸水深 3.0~5.0m
浸水深 0.5~3.0m
浸水深 0~0.5m

避難の際に持ち出す「非常用持出品」をあらかじめ準備しておきましょう。
持出品は定期的にチェックし、有効期限や電池等が切れていないか確認しておきましょう。

非常食 飲料水、缶詰、レトルト食品など 	衣類 下着、タオル、靴下、季節に応じた厚物、軍手、ヤッケ、シーツなど 	救急医療品 救急医薬品、常備薬、マスク、紙おむつ、生理用品 
貴重品 現金、貯金通帳、印鑑、権利書、健康保険証など身分証明書 	道具 懐中電灯、携帯ラジオ、使い捨てのカリコ、石鹸、ロープ、ナイフ、ライター、ティッシュ、使い捨ての食器、ひも、ゴミ袋など 	生活必需品 調理器具、食料、日用品、衛生用品 

状況により、すばやく避難しましょう 避難情報などが発表されていなくても、雨の状況などから判断し、自主的に避難しましょう。	家族には連絡メモを残そう 外出中の家族には、「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておくとういでしょう。
---	---

持ち出し品は最小限に  非常用持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。	集団で助け合おう  車ばかりの行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。
浸水の中での避難は浅くしましょう  水深が浅くても流れが速いとは歩行が困難になります。また、水は泥で色黒く濁っています。ため、避難時は注意しましょう。	安全なルートで避難  避難所へ経路は、川べりや地下歩道などは避け、できるだけ安全な道を選びましょう。
防災メモを用意  高齢者や子どもは、事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難しましょう。	安全な避難経路の確認  日ごろから洪水ハザードマップを使用しながら市や自治会の避難訓練に参加し、避難経路の安全を確認しておきましょう。

 魚津市
魚津市釈迦堂一丁目10番1号

ハザードマップに関する問合せ先
建設課：23-1029
防災に関する問合せ先
総務課：23-1078

避難情報に気をつけ、情報が出たら早めの避難を心がけましょう。

やや強い雨 1時間に10~20mm 	強い雨 1時間に20~30mm 	激しい雨 1時間に30~50mm 	非常に激しい雨 1時間に50~80mm 	猛烈な雨 1時間に80mm以上 
ザーザーと降る雨で、地面からの跳ね返りで足元がぬれる程の雨になり、雨になりそうなら注意が必要です。	どしゃ降りの雨で、傘をさしてもぬれる程の雨です。外へ出るとぬれる恐れがあります。テレビやラジオで今後の様子に注意し長引くそうなら避難の準備をしましょう。	バケツをひっくり返したような激しい雨です。道路が川のようになる。避妊も行われます。避難の準備をしましょう。	滝のように降り、あたりが水ぶしぶ、白っぽくなるような雨です。のぼりや看板が落下するおそれがあり、警戒が必要です。車での移動は避けましょう。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じるような大雨です。のぼりや看板が落下するおそれが高く、厳重な警戒が必要です。車の移動は避けましょう。